

キバナノツキヌキホトトギス

1 階自然史展示室で紹介しています。

キバナノツキヌキホトトギス(ユリ科)は宮崎県の固有植物で、広い世界のどこを探しても宮崎県だけにしか分布していません。1934年(昭和9)年に尾鈴山で発見されました。黄色い花をつけ、葉の付け根が茎に包まれ、突き抜けているように見える事からこの名が付けました。ホトトギスとは、この仲間のグループの総称で、花びらの模様が鳥のホトトギスの胸の横じまに似ていることによります。



茎の長さは50~100cm、9月下旬~10月下旬にかけて花を咲かせ、それぞれの葉の付け根に1~2個の花をつけます。尾鈴山を中心に生育しており、水のしたたり落ちるような湿った崖地に垂れ下がります。近年は乱獲などにより減少し絶滅が危惧されています。

駄菓子屋さん

みなさんは駄菓子屋を知っていますか？

昭和30年頃、子どもたちはお小遣いを握りしめて駄菓子屋に遊びに行っていました。駄菓子屋とはお菓子やおもちゃを売っている小さなお店のことです。限られたお小遣いで何を買うか子どもたちは一生懸命考えました。お店の前には、たくさん子どもたちが集まって交流したり、買ったものを見せ合ったりして、社交場のような様子でした。駄菓子屋にはお菓子だけでなく、メンコ、紙風船、竹とんぼなどのおもちゃもありました。

宮崎県総合博物館2階歴史展示室の時代の広場には、そんな駄菓子屋を再現して展示しています。是非、足を運んで、昭和30年頃にタイムスリップしてみてください。



博物館クイズ

2階民俗展示室の中央通路にて3箇所ちめいの柱ガラスに展示してある人形の呼び名(〇〇人形)には、ある地名がついていますが、次のうちどれでしょうか？

①清武

②佐土原

③高鍋

